

(別記)

第1 事業の内容等

1 事業内容

持続的生産強化緊急対策（令和8年熊本地震対応産地緊急支援事業）（以下「本事業」という。）で支援する取組は、令和8年熊本地震により甚大な被害を受けた地域において、営農再開又は集出荷施設等（集出荷貯蔵施設、乾燥調製施設、穀類乾燥調製貯蔵施設、農産物処理加工施設、育苗施設、産地管理施設、生産技術高度化施設及び種子種苗生産関連施設をいう。以下同じ。）における農作物の出荷の円滑化等を図るために共同で行う以下の取組とする。

ただし、（1）と（3）については、同一ほ場において、重複した事業内容に取り組むことはできないものとするほか、（2）と（4）については、同一製織作業場において、重複した事業内容に取り組むことはできないものとする。

（1）営農再開支援

ア 資材の調達等支援

（ア）早期営農再開

令和8年度中の早期営農再開に必要となる生産資材（種子・種苗等の消費材に限る。）の調達、役務等を確保する取組

（イ）作物転換・規模拡大

被災を機に作物転換・規模拡大等を図る場合に必要となる生産資材等（パイプハウスのパイプ等の撤去費用を含み、種子・種苗等の消費材を除く。）を調達する取組

イ 栽培環境整備

被災に伴い新たに必要となる作物残さ（保管中に被害を受けたいぐさ原草及び畳表を含む。）や飛散したガラス等の撤去、追加的な施肥・防除等の栽培環境整備のための取組

ウ 土づくり

災害復旧事業により客土を行い復旧した農地の生産力回復を図るために必要な追加的な堆肥の投入等の土づくりの取組

エ リース方式による農業機械等の導入

被災を機に作物転換・規模拡大等を図る場合に必要となる農業機械又は施設園芸用機器等（以下「農業機械等」という。）をリース方式により導入する取組

なお、リース方式による農業機械等の導入に関する基準等は別紙に定めるとおりとする。

オ 収穫・調製作業

被災により追加的に必要となった収穫・調製作業を行う取組

（2）集出荷施設等における農作物の出荷円滑化等支援

ア 施設の仮復旧等

被災により機能が低下した集出荷施設等について、簡易修繕等により一時的に機能を回復させる取組

イ 周辺集出荷施設等の活用

被災した集出荷施設等に集荷した農作物を周辺の集出荷施設等での選果・加工等のために輸送し、又は周辺の育苗施設から被災地域へ種苗を融通するために輸送する取組

ウ 集出荷機能等の強化

被災による集出荷機能等の低下を手選果等により補い、集出荷量等を回復させる取組

(3) 地震被害に対する果樹農業継続特別支援

ア 病害の発生・まん延防止

被災により落下した果実の処分及び追加防除による病害の発生・まん延防止の取組

イ 樹勢回復

被災により低下した樹勢を整枝や追加施肥により回復させる取組

(4) 地震被害に対するいぐさ・畳表生産継続特別支援

ア 周辺製織作業場の活用

被災したいぐさ生産者が製織作業を再開するために、保有するいぐさ原草や織機等の機械を周辺製織作業場へ輸送する取組

イ 製織作業等の共同実施

被災したいぐさ生産者が保有するいぐさ原草及び織機等の機械を集約して製織作業等を共同で行うための製織作業場及びいぐさ原草の保管庫を確保する取組

2 事業実施主体

(1) 1の(1)の取組の事業実施主体は、次に掲げる者であって、受益農家が3戸以上であるものとする。

ア 都道府県

イ 市町村

ウ 農業者の組織する団体（事業実施及び会計手続を適正に行い得る体制を有しており、代表者の定めがあり、かつ、組織及び運営についての規約の定めのある団体に限る。以下同じ。）

エ 公社（地方公共団体が出資している法人をいう。以下同じ。）

オ 地域農業再生協議会（経営所得安定対策等推進事業実施要綱（平成27年4月9日付け26経営第3569号農林水産事務次官依命通知）第2の2の(2)に定める地域農業再生協議会、担い手育成総合支援協議会設置要領（平成17年4月1日付け16経営第8837号農林水産省経営局長通知）第1の3に定める地域担い手育成総合支援協議会又は「果樹産地構造改革計画について」（平成17年3月25日付け16生産第8112号農林水産省生産局長通知）第2の1に定める産地協議会をいう。以下同じ。）

カ 地方農政局長等（北海道にあっては北海道農政事務所長、沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局長、その他の都府県にあっては当該都府県を所管する地方農政局長をいう。以下同じ。）が事業目的に資するとして特に必要と認めた団体（以下「特認団体」という。）

(2) 1の(2)の取組の事業実施主体は、次に掲げる者であって、受益農家が3戸以上である集出荷施設等の所有者又は運営主体とする。

ア 都道府県

- イ 市町村
- ウ 農業者の組織する団体
- エ 公社
- オ 特認団体

(3) 1の(3)の取組の事業実施主体は、次に掲げる者であって、受益農家が3戸以上であるものとする。

- ア 都道府県
- イ 市町村
- ウ 農業者の組織する団体
- エ 公社
- オ 地域農業再生協議会
- カ 特認団体

(4) 1の(4)の取組の事業実施主体は、次に掲げる者であって、受益農家が3戸以上であるものとする。

- ア 都道府県
- イ 市町村
- ウ 農業者の組織する団体
- エ 公社
- オ 特認団体

3 採択要件

採択要件は、次に掲げる全ての要件を満たすこととする。

(1) 成果目標の基準

- ア 1の(1)のアの(ア)及びオの事業
被災した農地等における営農再開とする。
- イ 1の(1)のイ及び(3)の事業
被災した農地等において令和8年度中の営農再開のために適切な環境が確保されることとする。
- ウ 1の(1)のウの事業
事業実施ほ場における単位面積当たり収穫量が従前の水準とおおむね同等まで回復することとする。
- エ 1の(1)のアの(イ)及びエの事業
受益農家が令和10年度までに作物転換・規模拡大等を行うこととする。
- オ 1の(2)の事業
被災した集出荷施設等の出荷の回復等とする。
- カ 1の(4)の事業
受益農家において令和8年度中に製織作業が再開されることとする。

(2) 目標年度

- ア 1の(1)のアの(ア)、イ及びオ、(2)、(3)並びに(4)の事業については、令和8年度とする。
- イ 1の(1)のウの事業については、事業実施後3か年が経過した日が属する年度とする。
- ウ 1の(1)のアの(イ)及びエの事業については、令和10年度とする。

(3) 事業の対象となる地域等

ア 1の(1)のアからウまで及びオの事業

助成の対象となるほ場等は、令和8年熊本地震の影響により、農作物等に甚大な被害を受けた地域において、次の(ア)から(ウ)までに掲げる要件を満たすほ場等とする。

(ア) 1の(1)のア及びオの事業

次のいずれかに該当するほ場とする。

- ① 市町村が被災により30%以上の収穫量等の減少が見込まれると認めたほ場
- ② 市町村が被災により20%以上の収穫量等の減少が見込まれると認めた農家の被災ほ場

(イ) 1の(1)のイの事業

市町村が都道府県に対し被災があった旨を報告したほ場等とする。

ただし、実需者が収穫・出荷(以下、「収穫等」という。)を行う予定であったほ場等の作物残さの撤去の取組については、当該実需者が、当該ほ場等において収穫等を行う予定であったが収穫等を行わなかった旨を証明できるものに限る。

(ウ) 1の(1)のウの事業

災害復旧事業(農地・農業用施設等)において、客土工法が用いられたほ場とする。

イ 1の(1)のエの事業

助成の対象となる地域は、令和8年熊本地震により、農作物又は農業機械等が甚大な被害を受けた地域とする。

ウ 1の(2)の事業

助成の対象となる地域は、令和8年熊本地震により、甚大な被害を受け、その機能の一部又は全部が不全となっている集出荷施設等が存在する地域とする。

エ 1の(3)の事業

助成の対象となるほ場は、令和8年熊本地震により、甚大な被害を受けた地域において、市町村が都道府県に対し被災があった旨を報告したほ場とする。

オ 1の(4)の事業

助成の対象となる地域は、令和8年熊本地震により、建屋又は織機等の畳表の生産に必要な機械が甚大な被害を受け、その機能の一部又は全部が不全となっている製織作業場が存在する地域とする。

(4) 上限事業費

1の(2)のアの事業に係る上限事業費は、1施設当たり原則1千万円とする。

4 補助率等

補助率等は別表のとおりとする。

5 留意事項

(1) パイプハウスの設置

生産資材の導入助成を受けてパイプハウスの設置を行う場合にあっては、天災等により被災した際に円滑な再取得等が可能となるよう国の共済制度(

国の共済制度に加入できない場合にあっては、民間の建物共済、損害補償保険等（天災等に対する補償を必須とする。））に確実に加入するものとする。

（２）農業機械等のリース導入

ア 助成対象者は、助成の対象となる農業機械等について、動産総合保険等の保険（盗難補償及び天災等に対する補償を必須とする。）に確実に加入するものとする。

イ 助成対象者が、国庫補助事業により農業機械等のリース導入に対する支援を受けていた実績がある場合は、法定耐用年数（減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）に定める耐用年数）の期間内における当該補助事業の成果目標の達成状況等を十分に考慮するものとする。

（３）農業共済、収入保険等の積極的活用

気象災害等による被災に備えて、助成対象者は、農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農業共済、収入保険等への積極的な加入に努めるものとする。ただし、１の（３）の事業の助成対象者については、農業保険法に基づく果樹共済又は収入保険に加入していない者は、今後いずれかに加入する意向が確認されていることとする。また、１の（１）イ（ア）のうち保管中に被害を受けたいぐさ原草及び畳表の撤去の助成対象者及び１の（４）の事業の受益農家のうち収入保険又はいぐさ・畳表農家経営所得安定化対策事業のいずれにも加入していない者については、収入保険に今後加入する意向が確認されていることとする。

第２ 助成

１ 補助対象経費

（１）補助対象経費は、本事業に直接要する別表の経費であって、本事業の対象として明確に区分でき、かつ、証拠書類等によって金額が確認できるものとする。

なお、その経理に当たっては、別表の取組ごとに整理するとともに、他の事業等の会計と区分して経理を行うこととする。

（２）農業用ハウス等の園芸施設共済の加入対象施設について、生産資材の導入助成を受けて再設置を行う場合には、災害対策での助成は園芸施設共済の支払共済金が基本であることから、以下のア又はイの場合とウを比較し、低い額を国庫補助費の上限とする。

ア 被災を受けた農業ハウス等が園芸施設共済に加入している場合

補助対象経費に $1/2$ を乗じて得た額から支払共済金に $1/2$ を乗じて得た額を差し引いて得た額。

イ 被災を受けた農業用ハウス等が園芸施設共済に加入していない場合

補助対象経費に $1/2$ を乗じて得た額から、補助対象経費に被災を受けた農業用ハウス等の経過年数及び施設の種類の種類に該当する時価現率（園芸施設共済共済価額設定準則を定める件（平成30年3月28日農林水産省告示第655号）別表１の時価現率をいう。）並びに $4/10$ （園芸施設共済の付保割合の最大値である 0.8 に $1/2$ を乗じて得た額）を乗じて得た額を

差し引いて得た額

ウ 補助対象経費から支払共済金及び地方の支援措置を控除して得た額

2 助成対象外の経費

次の経費は本事業の助成の対象としない。

- (1) 国の他の助成若しくは支援を受け、又は受ける予定となっている取組に係る経費
- (2) 農業以外に使用可能な汎用性の高い農業機械等のリース導入経費（例：運搬用トラック、フォークリフト、ショベルローダー、バックホー、パソコン等）
- (3) 本体価格が50万円未満の農業機械等（アタッチメント含む。）のリース導入経費
- (4) 本事業の実施期間中に発生した事故又は災害の処理のための経費
- (5) 補助対象経費に係る消費税及び地方消費税に係る仕入れ控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）の規定により仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額及び当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計に補助率を乗じて得た金額）

第3 事業実施手続

1 事業実施計画の作成等

- (1) 事業実施主体は、別記様式第1号に次の別添様式を添付した事業実施計画を作成し、交付申請書に添えて当該事業実施主体の主たる事務所が所在する区域を管轄する地方農政局長等に提出するものとする。

なお、事業実施計画の事前調整等が必要な場合は、持続的生産強化対策事業推進費補助金交付等要綱（令和4年4月1日付け3農産第3174号農林水産事務次官依命通知。以下「交付等要綱」という。）第7の3に基づき、地方農政局長等は交付申請書の提出より前に、事業実施主体に対し事業実施計画の提出を求めることができるものとする。

ア 第1の1の（1）のアの事業

別添様式第1号

イ 第1の1の（1）のイの事業

別添様式第2号

ウ 第1の1の（1）のウの事業

別添様式第3号

エ 第1の1の（1）のエの事業

別添様式第4号

オ 第1の1の（1）のオの事業

別添様式第5号

カ 第1の1の（2）のアの事業

別添様式第6号

キ 第1の1の（2）のイの事業

別添様式第7号

ク 第1の1の（2）のウの事業

別添様式第8号

ケ 第1の1の(3)の事業

別添様式第9号

コ 第1の1の(4)の事業

別添様式第10号

サ 第1の2の(1)のカ、(2)のオ、(3)のカ又は(4)のオの特認
団体として事業を実施予定の団体

別添様式第11号

(2) 事業実施主体は、成果目標の達成に資する場合には、本事業の範囲内で、
事業実施計画の内容を変更することができる。

ただし、事業実施計画の内容の変更が次のいずれかに該当する場合にあっては、重要な変更として、地方農政局長等に事業実施計画の変更協議を行うものとする。

ア 事業の中止又は廃止

イ 事業実施主体の変更

ウ 事業費又は事業量の3割を超える変更

エ 国庫補助費の増又は3割を超える減

2 事業実施計画等の承認

地方農政局長等は交付等要綱第9の1に基づく交付決定を行った場合、併せて、第3の1の(1)により提出された事業実施計画等を承認したものとする。

3 指導監督等

(1) 指導監督

事業実施主体は、本事業の適正な推進が図られるよう、助成対象者に、

ア 農業機械等のリース契約書等関係書類の管理及びリース期間内の適正な利用

イ パイプハウス等の耐用年数期間内における適正な利用
について指導するものとする。

(2) 助成金の返還等

ア 地方農政局長等は、事業実施主体に交付した助成金に不用額が生じることが明らかになった場合にあっては、助成金の一部若しくは全部を減額し、又は事業実施主体に対し、既に交付された助成金の一部若しくは全部の返還を求めることができるものとする。

イ 事業実施主体は、助成対象者が本事業を活用して導入した農業機械等及びパイプハウス等が事業実施計画に従って適正かつ効率的に利用されていないと判断される場合であって、そのことに正当な理由がなく、かつ、改善の見込みがないと認められるときは、助成対象者に対し既に交付された助成金の一部若しくは全部の返還を求めることができるものとする。

ウ 事業実施主体は、助成事業に関して、助成対象者から助成金の返還又は返納を受けた場合は、当該助成金の国庫補助相当額を国に返還しなければならない。

エ 地方農政局長等は、事業実施主体による(1)の指導監督が適正に実施されていないと判断される場合であって、そのことに正当な理由がなく、

かつ、改善の見込みがないと認められるときは、イ及びウの規定にかかわらず、事業実施主体に対し、既に交付された助成金の一部若しくは全部の返還を求めることができるものとする。

第4 事業実施状況の報告等

- 1 事業実施主体は、事業実施年度の翌年度の7月末日までに、別記様式第2号により、事業の実施状況を地方農政局長等に報告するものとする。
ただし、目標年度が令和8年度の取組については、別記様式第3号による事業評価報告書をもって代えることができる。
- 2 地方農政局長等は、1の実施状況報告の内容について検討し、事業の成果目標に対して達成が遅れていると判断される場合等には、当該事業実施主体に対し、成果目標の達成に向けた必要な指導を行うものとする。

第5 事業の評価

- 1 事業の評価に当たって実施主体が行う成果目標の達成状況の自己評価は、原則として、別記様式第3号により作成し、目標年度の翌年度の7月末日までに地方農政局長等に報告するものとする。
- 2 1の報告を受けた地方農政局長等は、遅滞なく、その内容について点検評価し、原則、その結果を踏まえた評価所見を別記様式第4号に記入するものとする。
- 3 地方農政局長等は、2により作成した評価所見等を農産局長に提出するものとする。
- 4 農産局長は、3により提出を受けた評価所見等を取りまとめ、評価結果・手法及びその他必要な事項等について意見を聴取するために評価検討委員会に諮るものとし、地方農政局長等は、評価検討委員会の意見を踏まえ、最終的な評価結果を取りまとめるものとする。
なお、評価検討委員会において意見聴取を行う場合には、地方農政局長等は、必要に応じて事業実施主体に提示して、事業の取組内容を評価検討委員会に説明させることができるものとする。
- 5 地方農政局長等は、4により取りまとめられた最終的な評価結果を公表するものとする。
- 6 地方農政局長等は、2の点検評価の結果、成果目標が達成されていないと判断する場合には、当該事業実施主体に対し、目標達成に向けて取り組むよう指導を行い、別記様式第5号により速やかに改善計画を提出させるものとする。
ただし、以下に該当する場合にあっては、事業実施主体から成果目標の変更又は評価の終了の改善計画を提出させ、評価検討委員会に諮り、妥当と判断された場合には成果目標を変更し、又は評価を終了することができるものとする。

。なお、成果目標の変更手続は、重要な変更に係る手続に準じて行うものとする。

ア 自然災害等により取組が困難となるような事態が生じている場合

イ 社会経済情勢の変化により成果目標の達成が困難となるような事態が生じている場合

7 6の改善計画に基づく取組の再評価については、1及び2に準じて行うものとする。

なお、事業実施主体は、成果目標の達成状況を改善計画の終期となる年度の翌年度の7月末までに報告するものとする。

ただし、改善計画は2年以内の計画となるよう設計するものとする。

8 地方農政局長等は、6により指導を行った場合には、その内容を農産局長に報告するものとする。

第6 その他

1 事業の着手

事業の実施については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）第6条第1項の交付の決定（以下「交付決定」という。）後に着手するものとする。

ただし、地域の実情に応じて早期の事業の実施が営農再開のために必要な場合については、交付決定前に着手することができる。この場合にあっては、支援内容及び助成対象者ごとに着手年月日を整理するものとし、交付決定を受けるまでの期間に生じたあらゆる損失等は自らの責任とすることを了知の上で事業を行うものとする。

2 事業費の低減

複数の業者から見積りを徴取すること等により、事業費の低減に努めるものとする。

別紙

リース方式による農業機械等の導入に関する基準等

本事業の第1の1の(1)のエの事業については、以下によるものとする。

1 農業機械等の範囲

本事業の対象とする農業機械等の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 共同利用又は担い手への機械作業の集約化に必要な農業機械等とする。
- (2) 助成対象となる農業機械等のリースについては、農業用機械施設補助の整理合理化について（昭和57年4月5日付け57予第401号農林水産事務次官依命通知）にかかわらず、リース方式による導入ができるものとする。
ただし、本事業による導入以前に利用された実績のある農業機械等は除く。

2 リース契約の条件

本事業の対象とするリース契約（農業機械等を導入して利用する者と農業機械等の賃貸を行う事業者（以下「リース事業者」という。）の2者間で締結する農業機械等の賃貸借に関する契約であって、リース事業者が利用者に対して貸し付けるために取得した農業機械等を対象とするものをいう。以下同じ。）は、次に掲げる要件を全て満たすものとする。

- (1) 事業実施計画に記載された農業機械等の利用者及び農業機械等に係るものであること。
- (2) リース事業者及びリース料が4の(3)により決定されたものであること。
- (3) リース期間が2年以上であり、かつ、法定耐用年数以内であること。

3 リース料助成金の額

リース料助成金の額は、次の算式①によるものとする。

ただし、当該農業機械等のリース期間をその法定耐用年数未満とする場合にあっては算式②、リース期間満了時に残存価格を設定する場合にあっては算式③によるものとする。

なお、当該農業機械等のリース期間をその法定耐用年数未満とし、かつ、リース期間満了時に残存価格を設定する場合にあっては、算式②又は③により算出した額のいずれか小さい方とする。

算式①：助成金の額＝農業機械等の購入価格（税抜き）×1／2以内

算式②：助成金の額＝農業機械等の購入価格（税抜き）×（リース期間／法定耐用年数）×1／2以内

算式③：助成金の額＝（農業機械等の購入価格（税抜き）－残存価格（税抜き））×1／2以内

算式②を用いてリース料助成金を算出する場合において、リース期間は、農業機械等の利用者が農業機械等を借り受ける日から当該リースの終了予定日までの日数とし、当該リース日数を365で除した数値の小数点以下第3位の数字を四捨五入して小数点以下第2位で表した数値とする。

また、申請額は、算出された金額の千円未満を切り捨てて千円単位とする。

4 事業実施手続等

(1) リース事業計画の作成及び提出

ア 事業実施主体は、リース料助成金を受けようとする農業機械等の利用者に、リース方式による農業機械等の導入に係る事業の実施計画（以下「リース事業計画」という。）の作成に必要な情報及び関連書類を提出させるものとする。

イ 事業実施主体は、アにより入手した情報及び書類の内容を確認の上、上記 3 によりリース料助成額を計算し、別添様式第 4 号によりリース事業計画を作成し、別記様式第 1 号に添付して地方農政局長等に提出するものとする。

(2) リース事業計画等の承認

地方農政局長等は、1 から 3 までに掲げる基準を全て満たしているか確認し、内容が適正である場合には、リース事業計画等の承認を行うものとする。

(3) リース事業者等の決定

事業実施主体は、リース事業者に農業機械等を納入する事業者を、原則として一般競争入札により選定した上で、農業機械等の利用者と協議してリース契約を締結するリース事業者及びリース料を決定するものとする。当該決定に際しては、事業実施主体は、事業実施主体及び事業実施主体の構成組織又は農業機械等の利用者と競争関係にある者に制約を加えることのないよう留意するものとする。

(4) 助成金の支払

事業実施主体は、(3) の入札及びリース契約に基づき農業機械等が農業機械等利用者に導入され、当該農業機械等の利用者から助成金の請求があった場合には、借受証の写し及び農業機械等の購入価格を証明する書類等により請求内容を確認の上、3 により算定されたリース料助成額の範囲内で、遅滞なく当該農業機械等の利用者にリース料助成金を支払うものとする。ただし、当該農業機械等の利用者がリース料助成金の支払先としてリース事業者を指定した場合にあっては、当該リース事業者に支払うことができるものとする。

(5) 助成金の管理

事業実施主体は、農業機械等の利用者へリース料助成料を遅滞なく支払うよう努めなければならない。また、事業実施主体は本事業に係る助成金を他の補助金、事務費等と区分して管理しなければならない。

持続的生産強化緊急対策（令和８年熊本地震対応産地緊急支援事業）

別表

取組の補助率等は以下のとおりとする。

共同で行う取組		補 助 対 象 経 費	補 助 率	注 意 点	事 業 実 施 主 体
(１) 営農再開支援	ア 資材の調達等支援 (ア) 早期営農再開	令和８年度中の早期営農再開に必要な生産資材（種子・種苗等の消費材に限る。）の購入経費並びに早期営農再開に必要な作業委託費及び農業機械等レンタル経費	１／２以内	・助成対象経費の根拠がわかる資料（納品書、請求書等）を添付すること。 ・他作物に転換する場合の種子・種苗費は、前作の種子・種苗費の２倍を上限とする。	次に掲げる者であって、受益農家が３戸以上であるものとする。 ア 都道府県 イ 市町村 ウ 農業者の組織する団体 エ 公社 オ 地域農業再生協議会 カ 特認団体
	(イ) 作物転換・規模拡大	被災を機に作物転換・規模拡大等を図る場合に必要な生産資材等（パイプハウスのパイプ等の撤去費用を含み、種子・種苗等の消費材を除く。）の購入等経費	１／２以内		
	イ 栽培環境整備 (ア) 作物残さ等の撤去	被災に伴い新たに必要となった作物残さや飛散したガラス等の撤去により、次期作又は作物転換に向け、良好な栽培環境を整備するために必要な掛かり増し経費（保管中に被害を受けたいぐさ原草及び畳表を含む。）	定 額 （作物残さ：１,５００円／１０a以内、ガラス等：１４,０００円／１０a以内、保管中のいぐさ原草及び畳表：５,５００円／人日以内）		
	(イ) 追加防除・施肥	被災からの生産回復等に向けて追加的に必要となる薬剤及び肥料の購入並びに土壌診断に必要な掛かり増し経費	１／２以内		
	(ウ) 防除方法の転換	被災を機に地上防除から航空防除に転換した際の航空防除委託経費	１／２以内		

共同で行う取組		補 助 対 象 経 費	補 助 率	注 意 点	事 業 実 施 主 体
	ウ 土づくり	災害復旧事業により客土工法を用いて復旧したほ場において、堆肥の追加的な投入を行った場合及び緑肥の適量のすき込みに必要な経費	定 額 (10,000円/10a以内)	事業に取り組む農業者が平年時において投入する堆肥の量（当該量が地域の平均的な堆肥の投入量を上回る場合は、その量）に対し、その半分以上の量の堆肥を追加投入する場合に限ることとし、助成対象経費の根拠が分かる資料を添付すること。	
	エ リース方式による農業機械等の導入	被災を機に作物転換・規模拡大等を図る場合に必要な農業機械等のリース導入経費	定 額 (本体価格 1 / 2 以内)	・農業機械等は本体価格（消費税を除く）が50万円以上のものとする こと。 ・共同利用又は担い手への機械作業の集約化に必要な農業機械等とすること。	
	オ 収穫・調製作業	被災により必要となった収穫・調製作業に要する掛かり増し経費	定 額 (8,000円/10a以内)	作業労賃等の根拠がわかる資料を添付すること。	
(2) 集出荷施設等における農作物の出荷円滑化等支援	ア 施設の仮復旧等	被災により機能が低下した集出荷施設等について、簡易修繕等により一時的に機能を回復させるために必要な経費	1 / 2 以内 (補修等に必要な経費に限る。)	補修等経費の根拠がわかる資料を添付すること。	次に掲げる者であって、受益農家が3戸以上ある集出荷施設等の所有者又は運営主体とする。 ア 都道府県 イ 市町村 ウ 農業者の組織する団体 エ 公社 オ 特認団体
	イ 周辺集出荷施設等の活用	被災施設に集荷した農作物を周辺施設に輸送し、選果・加工等を行うために必要な輸送経費や周辺の育苗施設から被災地域へ種苗を融通するために必要な輸送経費	定 額 (7,000円/ t 以内)	輸送費の根拠がわかる資料を添付すること。	
	ウ 集出荷機能等の強化	被災による集出荷機能等の低下を手選果等により補い、集出荷量等を回復させるために必要な作業労賃費	定 額 (5,600円/人日以内)	作業労賃の根拠がわかる資料を添付すること。	

共同で行う取組		補 助 対 象 経 費	補 助 率	注 意 点	事 業 実 施 主 体
(3) 地震被害に対する果樹農業継続特別支援	ア 病害の発生・まん延防止	被災による果実の落下に伴う病害の発生・まん延防止に必要となる落下果実の処分及び追加防除に必要となる作業労務費及び薬剤費	定額 (25,000円/10a以内)	助成対象経費の根拠がわかる資料（納品書、請求書、作業労賃の根拠がわかる資料等）を添付すること。	次に掲げる者であって、受益農家が3戸以上であるものとする。 ア 都道府県 イ 市町村 ウ 農業者の組織する団体 エ 公社 オ 地域農業再生協議会 カ 特認団体
	イ 樹勢回復	被災に伴う樹勢低下からの回復に必要な整枝及び追加施肥に必要な作業労務費及び肥料費	定額 (28,000円/10a以内)		
(4) 地震被害に対するいぐさ・畳表生産継続特別支援	ア 周辺製織作業場の活用	被災したいぐさ生産者が製織作業を再開するために、保有するいぐさ原草や織機等の機械を周辺製織作業場へ輸送する際に必要な輸送経費	定額 (いぐさ原草：7,000円/t以内、機械：5,500円/人日以内)	輸送費や作業労賃の根拠がわかる資料を添付すること。	次に掲げる者であって、受益農家が3戸以上であるものとする。 ア 都道府県 イ 市町村 ウ 農業者の組織する団体 エ 公社 オ 特認団体
	イ 製織作業等の共同実施	被災したいぐさ生産者が保有するいぐさ原草及び織機等の機械を集約して製織作業等を共同で実施する際の製織作業場及びいぐさ原草の保管庫の借上費	1/2 以内	・ 助成対象経費の根拠がわかる資料（賃貸借契約書等）を添付すること。 ・ 共同で実施する製織作業場とは、5戸以上（やむを得ない事情がある場合は3戸以上）とする。	